

ユネスコスクールとは・・・ユネスコスクールは、1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足しました。世界182か国で11,500校以上がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2018年2月現在、1033校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。(国内の幼稚園は26園、東京都内では本園が第1号の認定になります) 日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指しています。(ユネスコスクール公式 Website から抜粋)

ユネスコスクールとなったから、新たに何かが始まるのではなく、既にこれまで行ってきた教育を更に深め、充実させていく、とご理解下さい。今後、ESD、ユネスコスクールに関連した様々な事例を紹介していきたいと思えます。

年少 森をぬけて乗馬クラブへ

幼稚園から森の中に入り、30分歩いてモーバン乗馬クラブに出かけました！ 沢山のサラブレッドやミニチュアホースと触れあい、畑の堆肥に使う馬糞もいただきました。よく頑張って歩き、森の自然や動物たちと触れあう素敵な時間となりました。



年長 稲刈り～脱穀～初すり

大切に育ててきた稲が、金色に輝き、頭を垂れ、いよいよ稲刈りの時期を迎えました。初めは先生が手を持ち、次からは自分一人で鎌を持ち刈っていきました。収穫した稲は、昨年刈った稲わらを使って縛り、馬にかけ、干した後、割り箸や千歯扱きや足踏み脱穀機を使って脱穀しました。今、もみすり・精米を楽しんでいます！そしていよいよもよ収穫祭「もおにぎりパーティー」です！

※これも正にESDです！ユネスコには「8ヶ月にわたる稲作活動」をカリキュラムとして申請してあります。



稲を刈ったら、 縛り方を知り、 稲架掛けし、 稲藁で遊び、



お米を生で試食し、 稲わらのお掃除、 稲と一緒に記念撮影 綱引き(稲藁繋がり)



千歯扱きで脱穀 手で脱穀 足踏み脱穀機 唐箕で藁くずを取る



初を分けて すり鉢とボールで初すり 初穀飛ばし 初すり精米機

職員研修 防災教育、野草研修

創立記念日を利用して全教職員で研修を行いました。今回は、午前には防災のプロフェッショナルで、官庁、企業、学校などでも研修を行っているタフジャパンの鎌田さんにお越し頂き、日頃気付かない様々な危険や防災への備えを学びました。午後には「ハーブ王子」山下智道さんと園庭や周辺の森を散策し、様々な日本の野草について学び、採取してお茶にしたり食すところまで行いました。今後、保育の中でお越し頂き、子ども達も四季折々の草花に親しむことができればと思います。



草花の観察画・木の葉を使って、、、

職員研修で行った野草観察研修から、早速、子どもたちと野草を見つけて摘んだり、香りを嗅いだり絵を画く様子がみられます。また落ち葉とドングリ、自然の粘土を使って双六を作る年長さんも。 どんどん興味を持って自然と関わって欲しいと思えます。

